平成２７年度　学校評価総括表　　伊丹市立摂陽小学校

教育目標	やさしく かしこく すこやかに――命を大切に・人を大切に・物を大切に――
重点目標	(1)基本的人権が尊重される教育の推進 (2) 一人ひとりのニーズを把握し、適切な教育支援を行う「特別支援教育」の推進 (3)わかる授業の創造による、生きてはたらく学力の育成 (4)心ふれあう仲間づくり (5)基本的な生活習慣を身につけさせる (6)心を育てる美しい環境づくり (7)命を守る安全教育の推進 (8)健やかな体づくり

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎･基本の徹底と、授業改善	･基礎的、基本的な知識･技能を習得する。 ･兵庫型教科担任制やティームティーチングできめ細やかな個に応じた指導で学力向上を図る。 ･授業力の向上と授業改善をめざして、職員研修を定期的に実施する。	･週5回、10～15分間の朝学習を活用し、漢字と計算練習を行う。 ･年20回の放課後学習にて、指導員の方と連携し、児童の実態にあった課題で行う。 ･漢字の10問テストを週に1回実施、その後まとめテストを行う。 ･算数プリントの反復練習を定着させ、単元確認テストを実施する。 ･6時間目のない月曜日に行う、学習タイム･出張や会議のない日に学級担任による放課後補修を継続的に行い、学習で困っている児童に漢字や基礎的な計算力をつけさせる。 ･授業を行う全ての教員が年1回以上の公開授業を行う。 ･家庭で30分程度でできる宿題を出す。	･朝学習が児童に定着する。 ･漢字10問テストでは正答率が90%以上になる。 ･算数単元確認テストでは正答率が80%以上になる。 ･めあてに対し、児童が振り返りをする。 ･児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく教えてくれる」の肯定的回答率が90%以上になる。 ･保護者アンケートにおいて「子どもは学習内容を理解している」の肯定的回答率が85%以上になる。 ･教職員アンケートにおいて、児童が理解しやすい「よくわかる授業づくり」の肯定的回答率が、90%以上になる。 ･授業を行うすべての教員が年1回以上の公開授業を行い、改善点を話し合う。	B	･始業前の「朝の学習」、放課後の「学習タイム」を実施し、反復練習を中心に基礎･基本の学力の定着を図った。 ･単元テストに関し、個々の児童の差はあるが、それぞれに伸びが見られた。 ･授業の理解に関する児童･保護者･教師の肯定的認識は、それぞれ91%、83%、96%であった。 ･全員が公開授業を行い、学年または学団で研修会を持ち、教師一人ひとりの授業力アップを図った。 ･児童アンケートの「家庭学習（宿題を含めて）を60分以上している」では、肯定的回答が67%であった。 ･宿題はしているが、自主的な家庭学習の習慣が身についていない児童もいる。	･音読計算を活用し、3年生以上に九九を定着させる。 ･全学年で共通して活用できる課題を使用し、児童の実態を把握し改善につなげる。 ･教職員は、年度当初に学校教育目標の具体化を話し合い、それを踏まえた学年･学級目標を設定する。 ･授業研究を全職員で取り組み、より児童の実態にあった授業内容･方法の検討を行う。 ･学力の向上に向けて、研究推進委員会、学力向上委員会で今後も話し合い全職員で取り組む。 ･家庭との連携を深め保護者にも宿題に関心を持ってもらうような取り組みを行う。（宿題チェック週間など）また、宿題以外の自主学習を促す取り組みを行う。	･子ども一人ひとりをよく見て、子どもの考え方を支援する授業を行ってほしい。 ･子ども同士が教え合う、主体的･協働的な学習も必要ではないか。授業にこれまで以上に取り入れるべきである。 ･ふり返り学習で、今日習ったことを確認して、定着を図ることが重要である。授業終了5分前になったら、振り返りを行うことを習慣化してほしい。
	思考力･判断力･表現力の育成	･思考力･判断力･表現力を育てる授業を展開する。 ･作文活動を充実させ表現力の育成を図る。 ･読書活動を充実させ語彙力の習得を図る。		･記述問題で自分の考えを書こうとする児童が80%以上いる。 ･高学年において、問題文と解答が別用紙になった形態の試験問題を実施する。 ･話し合い活動、ペア学習をする中で、児童同士が児童同士の関わりの中で、コミュニケーションをとり、考えを深めることができる。 ･1ヶ月の読書目標8冊を達成する。	B	･記述問題に関し、何かを書いた耳児童が83%であった。 ･高学年において、問題文と解答が別用紙になった形態の試験問題を実施し、解答記述方法への抵抗が減った。 ･スモールステップの目標を立てることで、新聞作成の積み上がりが感じられた。 ･自分の考えを相手に伝えようとする意欲的な姿が見られた。 ･全学年を通して、1ヶ月の一人当たりの平均読書量は8.29冊だった。しかし、児童によって読書量の違いがみられる。 ･児童アンケートの「読書は楽しい」で肯定的評価が94%であった。読書への取り組みで、読書への関心が高まった。	･各教科で、自分の考えを書く場面を、設定し指導を行う。 ･スモールステップの目標を今後も立てることを継続する。 ･児童同士の関わり合いを今後も取り入れる。 ･家庭での読書の啓発活動を継続して行う。	･教師の授業力の向上が不可欠である。今後とも研修を深めてもらいたい。 ･全教科において、書くことの重要性を認識すべてである。 ･読書はあらゆる学習の基礎となる活動であることを、全教職員で共通理解し、各学年とも読書冊数を増やしてほしい。
	学習意欲の向上	･授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ･学習習慣の定着を図る。	･各教科の単元指導の中で、電子黒板、実物投影機等のICT機器を効果的に活用し、学習意欲の向上を図る。 ･学習の中で意見交流をする機会を作る。 ･校内の研究と連携（学ぶ意欲を引き出す工夫）し、学団ごとに目標や課題を設定して、授業に取り組む。	･ICT機器を活用し、児童が課題を想像しやすくする。 ･話し合い活動を通し、考えを伝える側は、学びが深まり、伝えられる側は自分の考えに自信を持つ。 ･児童アンケートの「先生は授業をわかりやすく教えてくれる」で肯定的評価が85%以上になる。	A	･電子黒板、実物投影機等のICT機器を活用し、視覚的に、学習意欲の向上ができた。 ･「先生は授業をわかりやすく教えてくれる」で肯定的評価が91%である。 ･体験活動や、日常生活と結びつけることで学習への意欲を感じた。	･児童の実態に合わせた、体験活動や、生活場面と結びつけた授業を進める。 ･ICTの効果的に活用する。 ･今後も学習の中で、児童同士の意見交流を行う。 ･来年度も校内研究で、意欲向上に向けて取り組む。	･さらにICTの多様な活用について研修を深めてほしい。 ･学習意欲の向上に家庭学習も重要であり、宿題にも工夫が必要である。 ･研究発表会に向けて全校をあげて取組み、児童の学習意欲の向上を図ってほしい。
豊かな心・健やかな体	不登校児童への対応	･不登校の未然防止を図る。	･連絡のない欠席児童については、始業前後に家庭に連絡を取り、連絡のつかない場合は児童支援教員を中心に家庭訪問を行う。 ･ケース会議を開き、個に応じた対策を検討する。 ･いじめアンケートをとり、早期発見する。	･病気欠席児童を除き、欠席数が50日以上の児童を0人にする。 ･保護者アンケートの「子どもは楽しく学校に通っている」、児童アンケートの「学校は楽しい」の肯定的回答が90%以上になる。	A	･本年度は該当児童は0人である。 ･連絡のない欠席児童については、始業前後に家庭に連絡を取り、連絡のつかない場合は児童支援を中心に家庭訪問を行い、登校を促した。 ･保護者アンケートの「子どもは楽しく学校に通っている」の肯定的回答が95%、児童アンケートの「学校は楽しい」は87%である。	･学級担任が児童支援教員と綿密な協力体制をとり、家庭との連携を継続して密にしていく。	･学級担任と児童支援教員との連携は、大いに評価できる。 ･「学校が楽しい」と言う児童アンケートが100%に近づくように努力してほしい。 ･授業改善に取り組んでいる姿勢は評価できる。
豊かな心・健やかな体	体力の向上	･自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。	･体育委員会児童主催の外遊び啓発運動を行う。 ･体育委員会児童主催の運動大会を行う。（長縄大会、ドッジボール大会、ボーリング大会、体力向上秘密特訓週間） ･教員対象の体育実技指導を行う。	･昨年のスポーツテストの記録よりも、80%以上の児童が上回る。	B	･男子は82%、女子は61%の児童が昨年より3ポイント以上のびた。 ･全校縄跳び大会、ドッジボール大会、ボーリング大会等、学校生活の中で、日常的、持続的に身体運動をする施策が行えた。 ･運動に苦手意識を持つ児童が体力向上秘密特訓週間（投力、バランス感覚）にたくさん参加していた。	･授業の中で投力を高めるような運動に関する実技講習を行う。 ･引き続き、体力向上秘密特訓週間を行っていく。 ･具体的な数値がスポーツテストだけの指標となり、高学年しか見えないので、全校生ののびが見えるように、種目を絞り、春と冬に計測を行う。	･体育大会は、すばらしかった。来年度もさらに充実してほしい。 ･休み時間に遊びを通して使って体力向上を図ることが必要である。また、先生方も、いろんな遊びを教えてあげてほしい。よく遊び、よく学ぶの実践が大切である。

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。 ・授業参観やオープンスクール、学習室参観週間を実施し、保護者や地域の方に普段の授業の様子を公開する。 ・学校評議員会や学校関係者評価委員会開催時には授業参観を行う。	・学校だよりを月2回程度を目標に発信する。 ・学校ホームページを週1回更新し、学校情報を積極的に発信する。	・学校ホームページを週1回更新する。 ・保護者アンケートの「学校は教育方針や行事、活動などの様子を学校通信やホームページ等を通じて保護者に伝えている」の肯定的回答が90%以上になる。 ・保護者アンケートの「学校は保護者の願いに応えている」の肯定的回答が85%以上になる。	A	・学校だよりを週2回程度で発信した。 ・学校ホームページは、学年別の行事があるごとに更新を行った。 ・保護者アンケートの「学校は教育方針や行事、活動などの様子を学校通信やホームページ等を通じて保護者に伝えている」の肯定的回答は、96%であった。 ・保護者アンケートの「学校は保護者が学習や集団生活で身につけてほしいと願っていることに応えている」の肯定的回答は95%であった。	・情報を載せている学年が偏っているとの、保護者の方からの意見があったので、更新日を決めてバランスよく発信していく。	・これまで通り、積極的に情報の発信を期待したい。 ・PTA活動が盛んになっているのは、学校が落ち着いているからである。さらに保護者や地域との協力を強固にしてほしい。

学校関係者評価総括
・学校全体が落ち着き、基礎基本の学力の向上がみられる。
・児童や保護者、地域に、学校通信やホームページを使って、学校情報を積極的に発信している。

次年度に向けた重点的な改善点
・児童の主体的・協働的に学ぶ学習に向けて」、アクティブ・ラーニングの研修を行う。
・家庭と連携して、家庭学習の習慣化や充実を図る。
・児童の体力向上に向けて、業間休みの体力向上講座や外遊びの奨励を行う。
・一人ひとりを大切にしたクラス作りを行い、学校に行くのが楽しいと言う児童を増やす。

自己評価の基準　Ａ：目標を上回った　Ｂ：目標どおりに達成できた　Ｃ：目標をやや下回った　Ｄ：目標を大きく下回った